

令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
(みつめなおして、よりよく③) 開催報告

- 1 趣旨 将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。また、コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、「みつめなおして、よりよく」していく必要がある。今回、CSと地域学校協働活動の一体的推進の方策についての理解を深めるとともに、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、活動の質的向上、一層の推進につなげる。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 参加者 100 名（会場 63 名、オンライン 37 名）
 - (1) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
 - (2) 各校園学校運営協議会関係者
 - (3) 地域学校協働活動関係者（地域学校協働推進員、学習支援員、ボランティア等）
 - (4) 公立園・小・中・高等学校、特別支援学校教職員
 - (5) 県および市町の社会教育委員
 - (6) 社会教育士
- 4 日時 令和6年10月10日（木）13：30～16：45
- 5 会場 滋賀県庁 新館7階 大会議室
- 6 内容
 - (1) パネルディスカッション
テーマ：「CSと地域学校協働活動 ～魅力の再発見から明日の活動へ～」
パネリスト：安田 隆人 氏（岡山県教育庁生涯学習課 地域学校協働活動アドバイザー）
柴原 力 氏（草津市立松原中学校 校長）
山元 尚美 氏（湖南市立石部南小学校 地域学校協働活動推進員）
 - (2) ワークショップ
テーマ：「私たちの活動の魅力 活動の“原点”はどこにある？」
- 7 パネルディスカッション・ワークショップについて

パネルディスカッションでは、「地域との連携・人材」、「持続可能な活動」、「学校における働き方改革」の3つのテーマで安田氏、柴原氏、山元氏に話題提供をしていただき、ディスカッションを行いました。

はじめに、柴原氏からは、「地域との連携・人材」をテーマに話題提供をいただき、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）を中心と



して、地域の方に活動に入り込んでいただくこと、また地域へ学校が出向いていくという「もちつもたれつ」の関係性などを紹介いただきました。

次に、山元氏からは、「持続可能な活動」をテーマに話題提供をいただき、ボランティアの間で、「何のためにボランティア活動をしているのか」の共通理解を毎年確認することが大切であるとお話いただきました。

最後に、安田氏からは、「学校における働き方改革」をテーマに、学校外のアイデアや考えを取り入れることが効果的であり、保護者・地域住民が参画して共有の目標をもち、対話を重ねながら協働して学校の課題解決や地域づくりを実現する、令和型の学校へシフトすることが大切であるとお話いただきました。

パネルディスカッションの総括では、「地域に学ぶ 地域と学ぶ」という言葉とともに、子どもと対等な立場で地域の人と一緒に学ぶことで、地域の担い手意識が高まると語っていただきました。また、「できることから、小さなことから」をはじめとして、参加者の方にはたくさんのお言葉を伝えていただきました。

ワークショップでは、3～5人のグループに分かれ、ウェビングマップを用いたワークを行いました。参加者自身の取り組んでいる地域学校協働活動についてみつめなおしていただき、協働活動の意義や目的について、改めて考えるきっかけになりました。



8 参加者のアンケートにより

【パネルディスカッションについて】

- ・3校の学校の例を提示していただき、大変勉強になりました。子どもたちを中心とした活動が多くあり、地域の方々とのように連携をとるか考えていきたいと思えます。
- ・様々な立場の方が語ることで、子どもを地域とともに育てるという意義を学ぶことができた。
- ・人材を探すこと、持続可能な方法、働き方改革のつながりなど、3観点で知りたいと思っていたことがよく分かりました。

【ワークショップについて】

- ・活動の原点はどこにあるかを交流することで、学校と地域がどのような関わりをすることが大切か、深く考えることができました。
- ・校種、地域等の違いで取組も様々だったので、いろいろな事例を交流できて良かった。まだまだ広げていけないといけませんが、学校と地域がともに、子どもの成長のために、一緒に取り組んでいきたい。
- ・学校で地域の人々の思いを伝えていくことが大切だと思いました。CSには大きな可能性があると思います。より充実させていきたいです。